

ノートルダム清心女子大学
未来と社会に向けた大学ビジョン
～ビジョン 2039～

答申

2019年4月

MVV（ミッション・ビジョン・バリュー）支援ワーキング・グループ

目次

はじめに	3
プロジェクトの概要	4
プロジェクトの経過	5
答申内容	7
おわりに	14
参照文献リスト	15
添付資料	16

はじめに

1 プロジェクト設置背景

2018年度第4回IRセンター会議において、中長期計画の策定の必要性が審議され、IRセンターからの提案内容に沿った策定プロセスが了承された。

本学の中長期目標を策定するにあたり、まずは本学のミッション及びビジョンを明示し、学内の意識を一つにすることが必要である。そのうえで、目標実現のための工程表を策定すべきである。

上記の、提言内容に基づき、本学の長期的なビジョンを明らかにするため、本プロジェクトが設置された。

2 諮問事項

私たちの長期的なビジョンはなにか。

プロジェクトの概要

1 目的

- 約 20 年後 2039 年（90 周年）に向けた大学の**指針**作り
- 大学の今後に向けた**全教職員**による議論の**きっかけ**作り

2 成果物

- 未来と社会に向けた大学ビジョン～ビジョン 2039～
（長期ビジョンステートメント）
- ビジョン 2039 答申（本報告）

3 期間

- 2018 年 11 月 9 日から 2019 年 4 月 8 日

4 プロジェクト実施体制（MVV 支援ワーキング・グループ構成員）

- プロジェクト協力
全教職員
- ワーキング・グループメンバー
青山新吾、小野真由美、桑野美幸、小橋雅彦、小山洋子、崎川修、下園和宏、
鈴木真、清板晃平、東城敏毅、豊田尚吾、西風美香、西田弘志、渡邊恭子（50
音順）
- ワーキング・グループ事務局
内部 小柴英子、小林裕、松沢克彦、山本恵理
外部 豊増信賢、栗原智、町井二奈（株式会社エデュース）
- ワーキング・グループ副グループ長 崎川修、豊田尚吾
- ワーキング・グループ長 山根道公
- ワーキング・グループオーナー 原田豊己

※次頁よりワーキング・グループを「WG」と表記する。

プロジェクトの経過

2018年11月9日の事務局キックオフ、12月3日のWGキックオフを実施。全教職員に対するアンケート調査の形で、本学の長期ビジョンに関する対話を開始し、委員個々による検討、複数回のセッションワークを通じ、ビジョン2039のステートメントを検討整理していった。

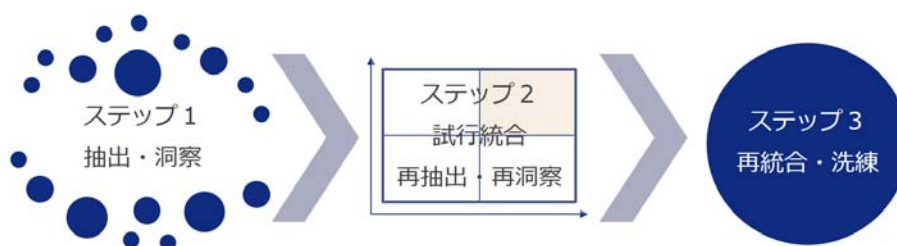
Figure 1：活動概要

日程	Action	全教職員	WGメンバー	事務局 Supported by educe	学長（オーナー）
18/11/9	第1回事務局MTG			事務局キックオフ	
18/11/26	第2回事務局MTG			第1回 WGセッション準備	
18/12/3	第1回WGセッション		WGの目的整理、『ビジョン2039策定アンケート』レビュー		
18/12/~1/	『ビジョン2039策定アンケート』	『ビジョン2039策定アンケート』への回答			
19/1/21	第3回事務局MTG			第2回 WGセッション準備	
19/1/24	第2回WGセッション		アンケート結果をふまえたビジョン案出		
19/1/30~2/14	『未来と社会に向けた大学ビジョンワークシート』		大学の全容を描く ビジョン案出		
19/2/20	第4回事務局MTG			第3回 WGセッション準備	
19/2/28	第3回WGセッション		大学の全容ビジョン原案のブラッシュアップ		
19/3/1	第5回事務局MTG			第4回 WGセッション準備	
19/3/4~19/3/8	アウトプットレビュー		答申原案レビュー		
19/3/13	第4回WGセッション		答申原案報告		
19/3/18,19	第6回事務局MTG			ビジョンの推敲	
19/4/	答申			ビジョン答申	

○ 調査検討プロセス

本プロジェクトでは、大まかに以下のステップで進行した。本学教職員が社会の変化を洞察し、本学のありたい姿を個々に思い描いた上で、共有しうる、共有すべき要素を抽出し、ビジョンの策定を行った。

Figure 2：検討プロセス



- 調査検討プロセス別経過
 - 抽出・洞察（～1/24）
 - ・ 将来の社会変化を見据えた教職員の意思・価値観抽出のための問いの設計
 - ・ 全教職員アンケートを通じた、教職員個々人の社会認識・価値観の抽出
 - ・ 抽出された社会変化の見立て、本学教職員の意思・重視する価値観の要素分類と構造化整理

 - 試行統合（～2/20）
 - ・ 整理された教職員の社会変化の見立て、本学教職員の意思・重視する価値観の洞察を踏まえ、結節点を考察
 - ・ 上記プロセスを経た WG メンバーによる体系的大学ビジョンステートメントの案出

 - 再統合・洗練（3/13）
 - ・ WG メンバーから案出された大学ビジョンステートメント案を踏まえた、統合原案の策定
 - ・ 統合原案・改訂案に対する、再評価とブラッシュアップによるとりまとめと合意形成

答申内容

○ 検討結果

諮問及びその背景を踏まえ、MVV 支援ワーキング・グループでの調査検討を踏まえた長期的ビジョンを次の通り定める。

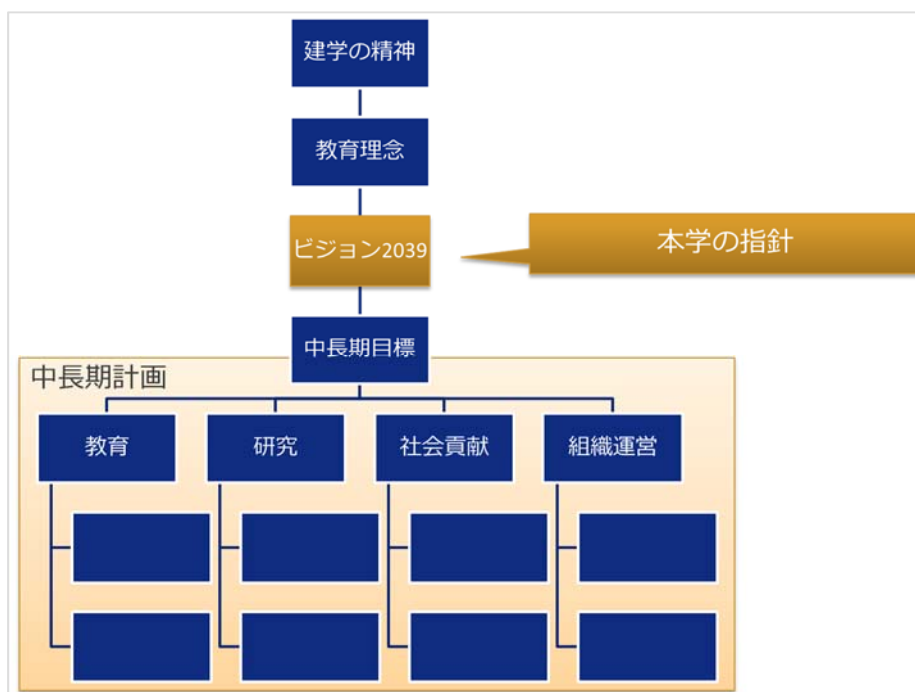
○ 策定したビジョン 2039 の位置づけ

ビジョン 2039 は、本学に存在する理念体系における「本学の経営・運営の指針」として、とりわけ「今と未来を生きる教職員によって、定められた指針」として位置づけられる。創立時から受け継ぐ建学の精神や、教育理念に関する再解釈とも位置づけられるが、受け継がれてきた理念を塗り替えるものではなく、それらと併存するものである。

ビジョン 2039 は、今後、本学のトップリーダーを中心に策定される中長期目標・中長期計画立案時における、意思決定の指針としての役割を果たすと同時に、全教職員の日常的な活動場面、活動の振り返り時における参照指針となる。

ビジョン 2039 は、本学内部の指針にとどまらず、本学のステークホルダーとも共有され、実現への協調を支援するものである。

Figure 3：ビジョン 2039 の位置づけ



○ 教育ビジョン

➤ 表明事項

輩出したい人材の要件と、そのような人材を養成するための教育のあり方について言及。

➤ 簡潔な表現

自らの生きる世界の中で、真に大切なことを見分け、
愛を持って他者に寄り添い、社会に奉仕していくことのできる人格を育成する。

➤ 補足文

◇ 輩出したい人物像

世界に知的なまなざしを向けると同時に、他者との関わりを謙虚に見つめ、与えられたもの*の可能性を信頼しつつ自ら判断し、身近なところから他者とともに、世界を平和でよりよくすることに貢献できる女性。

※与えられたもの...自らの存在が神から与えられた善きものであるというキリスト教的な人間観を込めた

◇ 教育の在り方

一人ひとりの学生が大学における学びを「生きることの意義」への問いに接続し、それぞれに与えられたものの多様な可能性を発見しつつ、それを現実の社会の中での具体的な「生き方」に結びつけられるように支え続ける、真のリベラルアーツ教育を提供する。

○ 研究ビジョン

➤ 表明事項

研究がもたらすべき成果とそれを生み出す環境、研究のテーマについて言及。

➤ 簡潔な表現

多様な研究成果を生み出し、地域、日本、そして世界へ還元することを通じて、全ての人が取り残されない平和で豊かな社会の実現に貢献する。

➤ 補足文

◇ 研究成果

世界に開かれ外部と有機的に連携しつつ、人に関わる研究を軸に、多様な分野で国際的な研究成果をあげる。

◇ 目指す姿

社会から寄せられる多様な期待に応えることによって中四国におけるカトリック女子高等教育機関のパイオニア*としてふさわしい研究拠点となる。地域課題の解決、ジェンダー平等の実現などに対し、多様な専門性を活かした学際的なアプローチにも積極的に取り組む。

※パイオニア…1949年4月 広島女学院とならび中四国初の4年制女子大学として開学。初代学長となったシスター・メリー・コスカは、アメリカの高等教育の現状をふまえ、確固とした信念と不動の人生観を育成する女子の全人教育のためには、ぜひ4年制大学を設けたいと考え、4年制女子大学設置を英断した。

○ 社会貢献ビジョン

➤ 表明事項

社会との関わり方と、その結果もたらすべき成果、及びそこにおける学内リソースの活用方法について言及。

➤ 簡潔な表現

大学が多様なつながりを生み出し、よりよい社会づくりへの貢献をすることで、地域、日本そして世界から信頼される平和の器*として、かけがえのない存在となる。

※平和の器…「平和を求める祈り」に基づく。「神よ、私をあなたの平和の道具（instrument）としてお使い下さい」と始まるこの祈りは、アッシジの聖フランシスコによるものと伝えられてきたが、現在では20世紀初頭にフランスで作られたと考えられている。日本語訳で「道具」はしばし「器」とも訳されるが、パウロは「土の器」という表現で、人間の奉仕者としての力を、神に由来するものと教えている。（コリントの信徒への手紙二4章7節）

➤ 補足文

◇ 成果とそれを生み出す交流の状態

かけがえのない存在となるために、地域における人と世界の結び目として、老若男女が集う場を創出する。集う人々の生活と、世界が接続されることで社会と自分のつながりの豊かさを発見する場として機能する。

◇ 資産の活かし方

教育研究機関としての資産、カトリック修道会の教育機関としてのネットワーク資産、歴史ある建築などの文化資産*などを活かし上記交流状態を実現する。

※歴史ある建築などの文化資産…本学のノートルダムホール本館とノートルダムホール東棟はフランク・ロイド・ライトの助手として帝国ホテルの建設に携わり、その後日本の建築界で長く活躍したアントニン・レーモンドの手によるものである。昭和初期のモダニズム建築の貴重な遺産であるとともに、今現在も当時の姿のまま活用されていることから、2007年に登録有形文化財となっている。

○ 組織運営ビジョン

➤ 表明事項

組織のあるべき状態と、それを生み出す風土、風土を形作る共通の価値観と仕組みについて言及。

➤ 簡潔な表現

学生の成長を第一に教職員が協働するとともに社会と連携し、一人ひとりが活躍する組織となる。

➤ 補足文

◇ あるべき状態

教育研究及び社会との連携を通じて社会・地域に貢献し続けてきた女子大学としての歴史や伝統※を理解し、それらとの対話を通じて、新たな伝統を紡いでいく。

学生一人ひとりを大切に育て支えるプロとして、学生との対話も含めた、協働と挑戦の恒常化を目指す。前向きなアクションと改善を繰り返しながら、成果が継続できるような仕組みを構築していく。

※歴史や伝統…1886年に開設された岡山市初の私立女学校を母体とし、130年以上に渡って地域に根ざした教育を行ってきた本学は、1949年の大学設置以後も、60年代の児童学科、食品栄養学科開設などの量的・質的な拡大、80年代の留学プログラムの充実などの国際化対応、さらには、現在の地域連携、SDGsへの対応など、社会からの期待に応えその姿をかえてきた。現在は、2学部6学科、大学院2研究科を有する女子高等教育機関として、地域社会の発展に尽力し続けている。

◇ 風土と基盤となる共通の価値観

他者への慈しみを基盤としながら、学生の成長を第一に希求する。ジェンダー平等やワーク・ライフ・バランスに配慮した、活気ある相互尊重の風土を形成する。

○ 大学ビジョン

➤ 表明事項

「わたしたちは、何を創り出したいか」という問いへの答え

➤ 簡潔な表現

人と世界をつなぎ、平和でよりよい未来を創る。

➤ 補足文

ノートルダム清心女子大学は、それぞれの世界を生きる人と人との出会う場となる。そこに集う人々は、世界の広がりを感じ、他者との違いを受け入れながら、新しい自己へと成長していくことができる。

この場所につながった人が、誰ひとり取り残されない、分かち合える社会を実現する。結果として世界に平和でよりよい未来がもたらされる。

○ ビジョン 2039 全体像

大学ビジョン：

『人と世界をつなぎ、平和でよりよい未来を創る。』

教育ビジョン：

『自らの生きる世界の中で、真に大切なことを見分け、愛を持って他者に寄り添い、社会に奉仕していくことのできる人格を育成する。』

研究ビジョン：

『多様な研究成果を生み出し、地域、日本、そして世界へ還元することを通じて、全ての人が取り残されない平和で豊かな社会の実現に貢献する。』

社会貢献ビジョン：

『大学が多様なつながりを生み出し、よりよい社会づくりへの貢献をすることで、地域、日本そして世界から信頼される平和の器として、かけがえのない存在となる。』

組織運営ビジョン：

『学生の成長を第一に教職員が協働するとともに社会と連携し、一人ひとりが活躍する組織となる。』

おわりに

この度のワーキング・グループで策定したビジョン 2039 は、目指すべき到達像であるとともに、これからの本学を創り出す対話の開始点である。ビジョンの内容報告の中でも謳われているとおり、私たちは、今後ビジョン 2039 というステートメントに整合する中長期目標とその計画を定め、一步一步着実に前に進んでいかなければならない。

当該取り組みにおいては、トップリーダーを中心に、各組織のリーダーが、現状とビジョン 2039 を踏まえ、取り組むべき課題の焦点化と解決策の選択、実行をリードし、支援することが求められる。

参考文献リスト

- ・ 大学ブランド・イメージ構築ワーキング・グループ答申書 2018.5.1
 - 添付資料1 「We have the SEISHIN SPIRIT」
 - 添付資料2 「本学所蔵のジュリー・ベリアート関連資料」
 - 添付資料3 「アメリカ・カトリック・リベラル・アーツの共通点」
- ・ 日経 BP 大学ブランド・イメージ調査 2016-2017
- ・ ナミュール・ノートルダム修道女会を設立母体とする学校の特徴（2018年度キリスト教科目「人間論」特別講義教材）
- ・ 『ノートルダム清心女子大学五十年史』1999.5.15 他各周年史
- ・ 「ノートルダム清心女子大学 60周年記念大学案内」2009.12
- ・ 「ノートルダムの教育-その理念と方針-」メリー・リンスコット講演録 1970.4.23
- ・ 「学生便覧 2018年度」
- ・ 「2016年度（平成28）年度 ノートルダム清心女子大学点検・評価報告書」
- ・ 日本カトリック学校としての自己点検評価基準 2013.2.21
<https://www.cbcj.catholic.jp/2013/02/21/12048/>

添付資料

- ・ 議事録
- ・ 『ビジョン 2039 策定アンケート』
- ・ 『ビジョン 2039 策定アンケート』 集約表
- ・ 『未来と社会に向けた大学ビジョンワークシート』
- ・ 『未来と社会に向けた大学ビジョンワークシート』 集約表